

グループホームありあけの丘 認知症高齢者グループホーム外部評価結果

番号	項目	良くできている	できている	努力が必要	評価困難
1	理念の具体化 サービス理念や運営方針は、家庭的な環境の中で、利用者の能力や尊厳を尊重したケアを行うなど、グループホームの特徴を生かしたものになっている。				
2	理念の共有と実現 すべての職員が、ホームの理念にもとづき、常にその実現に取り組んでいる。				
3	グループホームでの生活空間づくりの工夫 入居者の日中の主な居場所となっているリビングはゆったりとした広さが確保されています。食卓を兼ねた2つのテーブルが配置され、日当りの良いリビング南側には向かってソファコーナーがあり、テレビを見たり、うたたねしたりと寛ぎの場所になっています。リビング角に一段高く作られた畳のコーナーは事務室と雪見障子で繋がっており、事務室からもリビング全体の把握が出来、入居者の見守りに安心感があります。飼われている小型犬は入居者によくなつき、アニマルセラピーの効果も上げているようです。リビングの壁面には入居者手作りのカレンダーや季節行事のピンナップ等がきれいにレイアウトして貼られ、訪問した家族にも入居者の日常の様子分かり、楽しい話題提供の材料にもなっているようでした。				
4	気軽に入れる雰囲気づくり 入居者や家族が入りやすい、近隣の住民も訪ねやすいなど、玄関まわりや建物の周囲が違和感や威圧感を感じさせないつくりになっている。				
5	家庭的な雰囲気づくり 共用の生活空間（玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレなど）をはじめ、調度品や設備、物品や装飾が家庭的な雰囲気になっている。				
6	くつろげる場所の確保 居室以外に、自由に過ごせるような居場所がある。				
7	居室の環境づくり 居室は、入居者一人ひとりの生活にあわせ、使い慣れた家具や生活用品、装飾品等が持ち込まれるなど、安心して過ごせる場所となっている。				
8	入居者の身体機能の低下を補うことに配慮した環境及び生活空間づくり				
9	痴呆症状に配慮した環境づくり 場所の間違いなどの混乱を防ぐための工夫がしてある。				
10	落ち着いた暮らしができる快適な環境づくり 入居者が落ち着いて快適に暮らせるように、音の大きさ、光の強さ、におい、冷暖房などに配慮してある。				
11	入居者に対するケアを行ううえで工夫されていること 9人の入居者を頻繁な見守りの必要な方、静かに過ごすことを好む方、またトイレに近い居室が良い方というように、状況に応じて3つのエリアの居室への部屋割りに配慮し、ケア充実のための工夫が図られています。夜間の混乱が見られた入居者も見守りのしやすい居室に移動してもらい、安心感から落ち着かれた例がある等の効果が見られました。車椅子利用の入居者には一段高くなった畳のコーナーに座布団を敷いて、座ったまま足を伸ばせるように支援するなど、状況に合った細やかな働きかけをしています。リビングのソファの肘には手作りのクッション入りのカバーを掛け、万一ぶつかった際のショックをやわらげる工夫をするなど、一つひとつの気づきを形にする努力をしています。				
12	個別・具体的な介護計画の作成 アセスメント（評価）に基づいて、入居者一人ひとりの状況に応じた具体的な介護計画を作成するとともに、その計画の内容について入居者や家族に説明している。				
13	介護計画への理解と実践 すべての職員が入居者一人ひとりの介護計画を理解し、その介護計画に沿ったケアを行っている。				
14	職員間での情報の共有 職員間での申し送りや情報伝達を確実にしている。また、重要事項について、すべての職員に伝わる仕組みがある。				
15	入居者一人ひとりの尊重 常に入居者一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーに配慮した言葉かけや対応を行っている。				
16	職員の穏やかな態度 職員の態度がゆったりしており、入居者への言葉かけなど、やさしい雰囲気で見守っている。				

番号	項目	良くできている	できている	努力が必要	評価困難
17	入居者のペースの尊重 ホーム側の決まりや都合で業務を進めていくのではなく、入居者が自分のペースを保ちながら暮らせるように支えている。				
18	入居者の意志の尊重 入居者一人ひとりが自分で決めたり希望を表したりすることを大切にしている。				
19	自立への配慮 入居者の「できること、できそうなこと」について、できるだけ手や口を出さずに、見守ったり一緒に行うようにしている。				
20	身体拘束のないケアの実践 すべての職員が、身体拘束についての正しい理解のもと、身体拘束をしないケアを実践している。				
21	入居者と共同した食事の支度と後かたづけ 献立づくり、買い物、調理や後かたづけなどについて入居者と共同して行う工夫をしている。				
22	入居者一人ひとりに合わせた調理方法・盛り付けの工夫 入居者一人ひとりの咀嚼・嚥下等の身体機能や、便秘・下痢等の健康状態にあわせた調理をしているかどうか。また、盛り付けの工夫等を行っている。				
23	家庭的雰囲気の食事支援 職員が入居者と同じ食事を楽しみながら、食べこぼし等に対する支援・介助をさりげなく行っている。				
24	一人ひとりに応じた排泄支援 おむつをできる限り使用しないで済むように、入居者一人ひとりの排泄パターンを把握し、トイレでの排泄や自立した排泄へ向けた支援を行っている。				
25	排泄時の不安や羞恥心等への配慮 排泄の誘導や介助、失禁などへの対応は、入居者の不安や羞恥心、プライバシーに配慮して行っている。				
26	希望に合わせた入浴の支援 入居者が自分の希望に合わせて入浴できるように支援している。				
27	希望に合わせた理美容院への利用支援 入居者の希望にあわせて、理美容院の利用を支援している。				
28	プライドを大切にした整容への支援 入居者のプライドを大切にしながら、容姿や着衣の乱れ、汚れ等に対してさりげなくカバーしている。				
29	細やかな安眠のための支援 夜眠れない入居者には、1日の生活リズムを通じた対策を取るなど、入居者一人ひとりの睡眠のパターンを把握し、安眠できるよう支援している。				
30	主体的な金銭管理に向けた支援 入居者本人が日常の金銭管理を行えるよう、入居者一人ひとりの状況に応じた支援をしている。				
31	ホーム内での役割・楽しみごとの創出 入居者がホーム内での役割や楽しみごとを見い出せるよう、家事や小動物の世話など、一人ひとりに応じた出番づくりをしている。				
32	口腔内の清潔保持 入居者の状況に応じて、口の中の汚れや臭いが生じないよう、歯磨きや入れ歯の手入れ、うがい等への支援、出血や炎症のチェックなど、口腔の清潔を日常的に支援している。				
33	身体状態の変化や異常の早期発見、対応 入居者の身体状態の変化や異常のサインを早期に発見できるように努め、その状況を記録に残している。				
34	服薬の支援 入居者の体調と使用する薬の目的や副作用、用法や用量を理解しており、入居者が医師の指示に従って服薬できるように支援している。				
35	緊急時の対処体制の整備 入居者のけが、骨折、発作、のど詰まり等の緊急時に職員が応急手当を行うことができるようにしており、協力医療機関や消防、警察等とあらかじめ必要な事項を取り決め、連携体制を整えている。				

認知症高齢者グループホーム外部評価結果

グループホームありあけの丘

番号	項 目	良くできている	できている	努力が必要	評価困難
36	地域における入居者の生活支援 入居者が、ホームの中だけで過ごさずに、買い物や散歩、集会への参加など、積極的に地域の中で楽しめるような機会をつくっている。				
37	入居者家族のホーム訪問に関する配慮 入居者の家族が気軽に訪問でき、居心地よく過ごせるよう、ホームに来やすい雰囲気をつくっている。				
38	入居者家族との交流支援 入居者と家族とが交流できるように、食事づくり、散歩、外出、行事など、ホームでの活動に参加する機会をつくっている。				
39	事業所としての組織的取組状況 法人代表者及び管理者は、現場の状況をよく理解して、職員と一体となって協力してケアサービスの向上に取り組んでいる。				
40	入居者の状態に応じた職員の確保 GHケアに適した資質を有する職員を採用するとともに、夜間を含め無理のない職員の勤務ローテーションを組むなど、入居者の状態や生活の流れを支援するための人員配置を確保している。				
41	事故防止の対策 けが、転倒、窒息、意識不明、行方不明等の緊急事態が発生した場合には、すべての職員が的確に対応できる体制を整えているとともに、再発防止対策を検討し、サービスの改善を図っている。				
42	入居者家族からの意見や要望を引き出す工夫 入居者の家族が、気がかりなことや意見、要望などを気軽に伝えたり相談したりできるように、家族の面会時の声かけ、定期的な連絡等を積極的に行っている。				
43	地域の人々との交流 入居者と地域の人々との交流のための取組みを行っている。				
44	地域社会への貢献 痴呆の理解や関わり方についての相談への対応や教室の開催、研修生やボランティア等の受け入れなど、グループホーム運営上培った知識や経験、技術などを地域社会に提供している。				
45	ホーム全体の雰囲気 小高い丘を登った広い法人の敷地内に特別養護老人ホーム、生活支援ハウスと隣接して建てられています。ホーム内はゆったりとしたリビングを中心に、自分のペースで寛ぐ入居者の姿があり、時折数人で懐かしい唱歌の歌声が聞かれるなど、和やかな光景が見られました。リビングの大きな窓からは往来する地域の人々の姿が見え、ホームやふれあい広場を訪れる人や車の気配が感じられる等、社会との繋がりが体感できるようでした。職員は家族の一員としての気持ちを持って自然に寄り添い見守ることを心掛けており、居心地の良い暮らしが提供されています。				
46	総括的な評価 職員の年齢構成や性別等、バランスの取れた職員配置となっています。人生の先輩として利用者を尊敬し、敬意を持って接することを基本方針としており、法人全体での理念の共有ができています。ホームの「目標」も明確に示され、利用者のニーズを把握した上で「我が家」としての暮らしを提供することに努力されています。法人で行われる研修への積極的な参加等、職員のレベルアップへの意欲も感じました。また、地域と共にある法人・ホームを目指し、積極的に交流を進めており、ふれあい広場の活用をはじめとするホーム機能の還元が充実しています。				
47	優れている点 特別養護老人ホーム、デイサービス、生活支援ハウス、グループホーム等を擁する福祉サービスの提供者として、法人全体で地域との密着な関わりを意識した運営が行われています。入居者の多数が近隣からの入居で、馴染みの地域で暮らす良さが活かされ、ターミナルケアを見据えたホームの指針を作成する等、日々変化する高齢の入居者への行き届いた支援体制が整えられています。過去2年の外部評価受審後に改善として様々な取り組みが行われており、ホームをさらに向上させたいという前向きな姿勢が感じられました。				
48	努力が望まれる点 外部評価の結果を受けて独自に実施した改善内容に関して、利用者の満足度という観点からも更にその効果等を検証する機会を設けられると、本年の年間目標である「気付き」に沿った質の向上に、より活かす事ができるのではないかと思います。				